

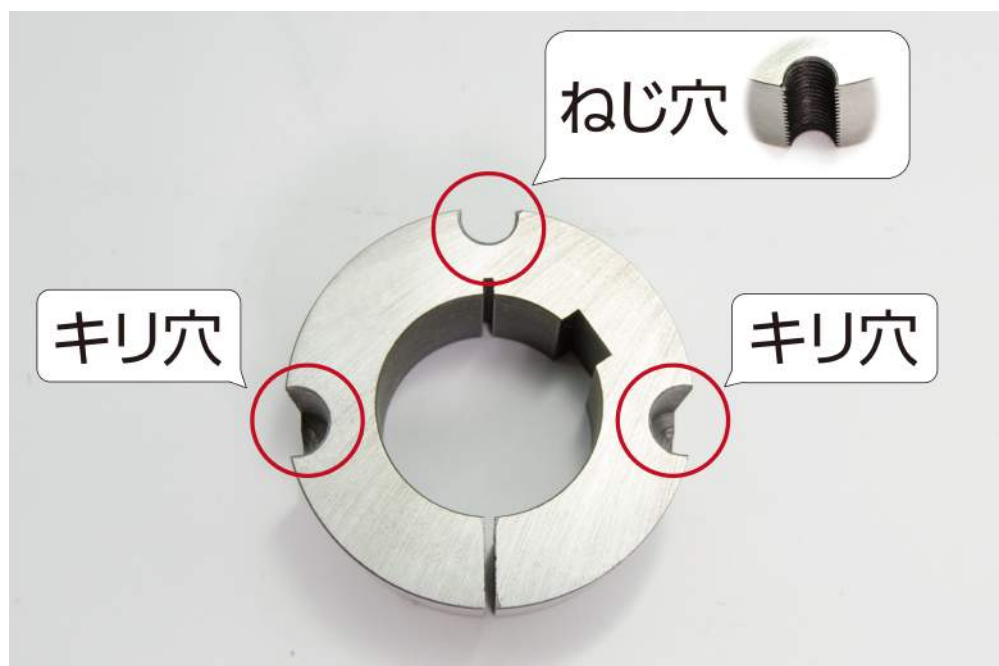
イソメック® ブッシング

タイプ1 取りつけ・取りはずし

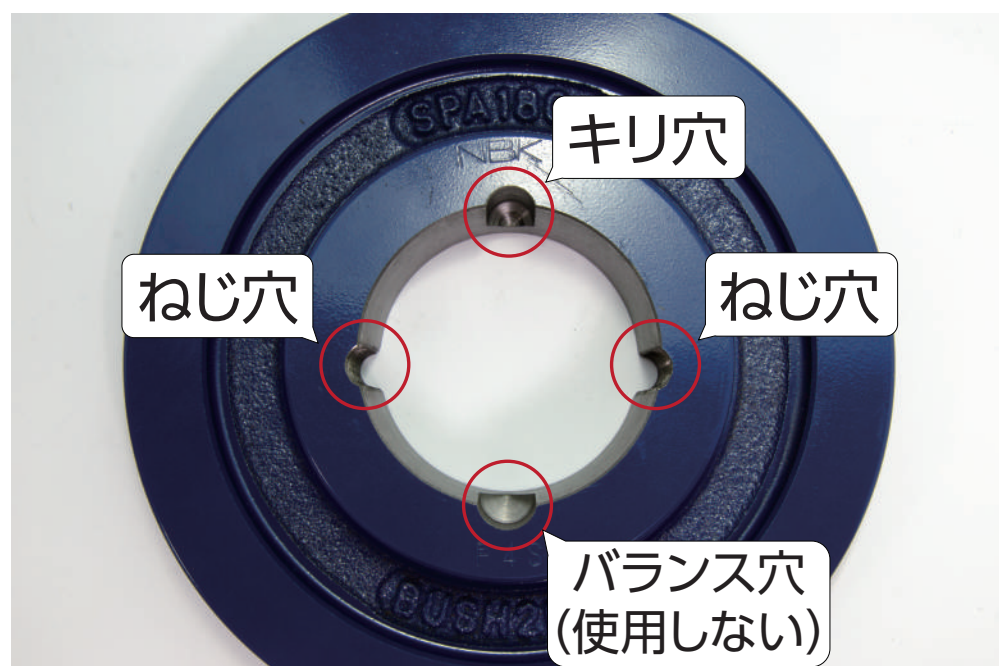
タイプ1のブッシングには、半分のキリ穴（2カ所）と、ねじ穴（1カ所）があいています。またプーリーには、半分のねじ穴（2カ所）と、キリ穴（1カ所）があいています。

取りつけ・取りはずしはこれらの穴にセットスクリューを締め込み、そのジャッキとしての作用を利用して行います。

ブッシング側

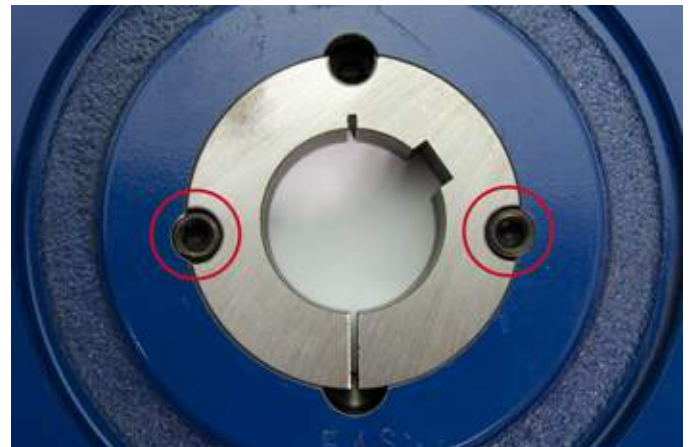
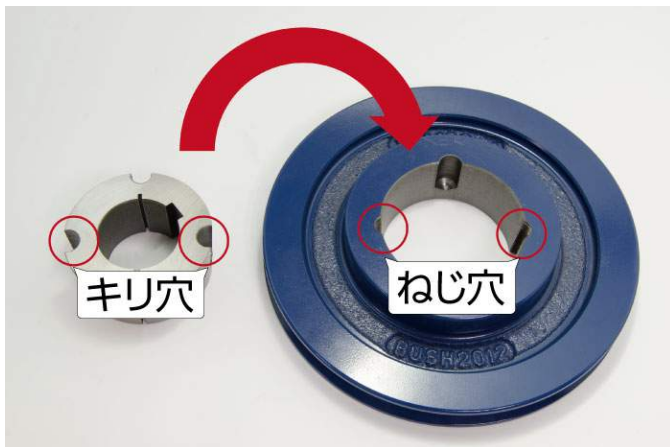


プーリー側



取り付け

- ① ブッシング、プーリーのテーパ穴およびシャフトを清潔にしてください。
⚠️ 油・ゴミは禁物です。
- ② ブッシングのキリ穴と、プーリーテーパ穴のねじ穴の位置を合わせ、静かにはめ込みます。
位置を合わせたところにセットスクリューを挿入し、その全長の 1/3 程度が入った状態に仮り締めします。
⚠️ セットスクリューはかならず付属のものを使用してください。



⚠️ 取り付け方向にご注意ください。

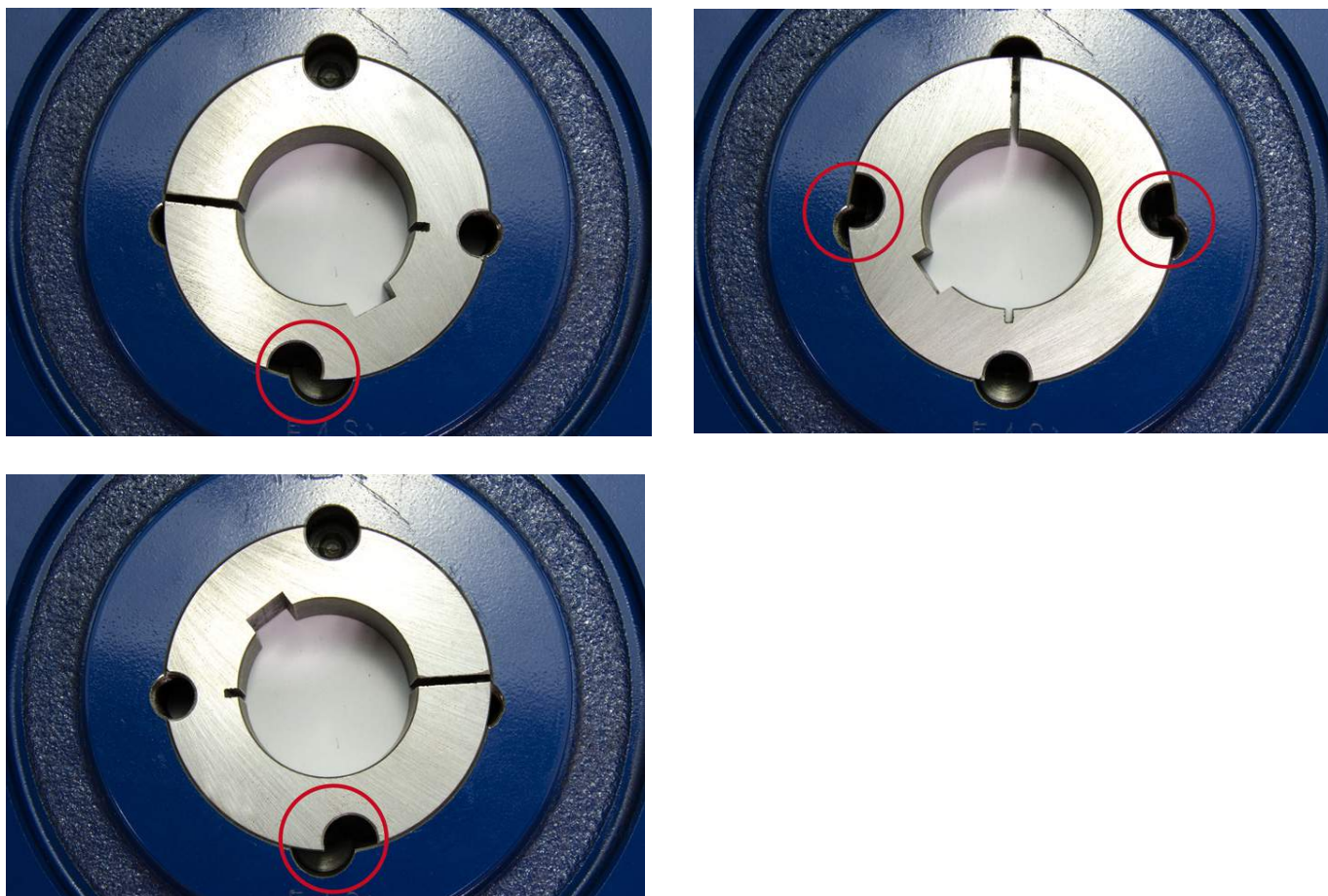
正しい取り付け方

ブッシング側の3つの穴すべてが合っている。




誤った取り付け方

穴が合わない箇所がある。



③ ブッシングをプーリーのテーパ穴から浮かした状態にして、シャフトを挿入します  。

キーを使用する場合は平行キーを使用し、これをあらかじめシャフトのキー溝に埋め込んだ状態でプーリーとブッシングをセットしてください。

 こう配キーは使用しないでください。



適応シャフトの外径の寸法許容差

単位：mm

シャフト径	寸法許容差
$\phi 11 \sim \phi 30$	+0.03 -0.06
$\phi 32 \sim \phi 75$	+0.03 -0.12

- ④ 六角レンチでセットスクリューを交互に少しずつ一様に締めつけます **図1-2**。
 ねじの推進力によりプーリーはブッシングの方向に引きつけられ、また、テーパの楔効果およびスリットのばね作用で軸穴は収縮し、プーリー・ブッシング・シャフトは完全に固定されます。
 セットスクリューが締まりにくい場合は、ブッシングおよびプーリーのハブ部を木またはプラスチックハンマで軽くたたいてください。
 ⚠️ セットスクリューの締めつけトルクは下表にしたがってください。
 ⚠️ 不均一な締めつけ方は振れの原因になります。

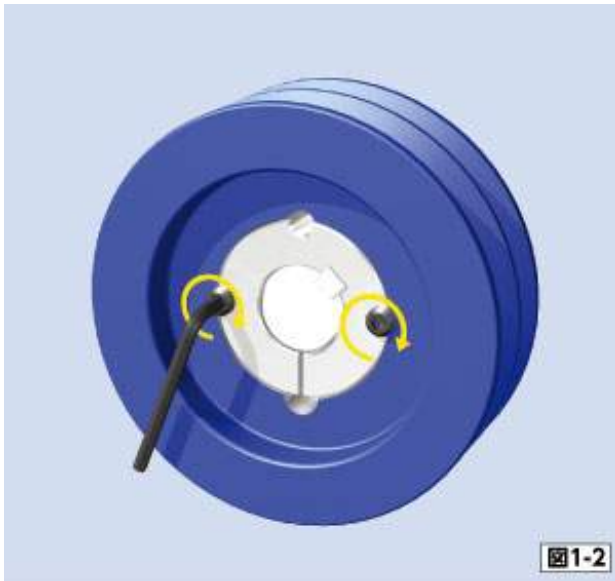


図1-2

セットスクリューの締めつけトルク

品番	セットスクリュー呼び (inch)	締めつけトルク (N・m)
1108	W ¼	5.6
1210	W ⅜	20
1310	W ⅜	20
1610	W ⅜	20
1615	W ⅜	20
2012	W ⅞	31
2517	W ½	48
3020	W ⅝	90

- ⑤ プーリーの外周およびリム側面の振れを測定し、許容値以下であることを確認してください。
 また、10分間程度の負荷試運転を行い、締結状態とセットスクリューの締まり具合を確認してください。

取りはずし

- ① セットスクリューをすべて取りはずしてください。
- ② セットスクリューの先端に油をつけ、**図 1-3**の位置に挿入し、締めつけます。セットスクリューのジャッキとしての作用によりプーリー・ブッシング・シャフトは分離し、簡単に取りはずすことができます。

